

高知県のマラソンイベントで生じる経済効果

～高知龍馬マラソン2016について～

1170479 湊 勇介

高知工科大学マネジメント学部

要旨

本論文は、高知龍馬マラソン2016の経済効果を算出する。直接効果と間接効果を足し合わせて、約2億9百万円の経済効果が確認された。

1. 初めに

現在、大小さまざまなマラソン大会が全国的に開催されている。その理由として、個人競技の参加しやすさ、マラソン人口の多さ、比較的参加者を集めることが簡単であることが考えられる。大会が開催されることで、参加者の効用が発生するのは当たり前であるが、金銭にしてどれだけの経済効果があるかはどの大会でも計算されているわけではない。

2. 研究意義・目的

本論文では高知龍馬マラソン2016を題材にし、直接効果および間接波及効果を求め、経済効果を算出していく。高知龍馬マラソンは高知県で一番大規模なマラソン大会だが、大会が開催されてから、経済効果は算出されてこなかった。高知県及び高知市が金銭的に支援しているイベントでもあり、経済効果及び費用対効果を算出することは、そのイベントの存続、また、他のイベントの開催を考えるための参考となり、高知県の観光産業発展にとってとても重要なものである。

3. 研究方法

本論文では、実行委員会の方へのヒヤリング、平成27年高知龍馬マラソン実行委員会収支決算書、平成27高知県県外観光入込・動態調査報告書及び先行研究吉川(2012)の方法に基づいて(ただし一部改める)(参考文献[1][2][3])

を用いて、直接的に高知県に帰着する金額である龍馬マラソン大会開催費用、高知県での宿泊費、高知県での消費額(食費・土産等)を足し合わせ、「直接効果」とする。直接効果の金額を現状で最新である平成23年高知県産業連関表に投入し、「間接効果」を算出する。その合計を高知龍馬マラソン2016の経済効果とする。

4. 高知龍馬マラソンの概要

高知龍馬マラソンが開催されるのは、高知県高知市である。県庁前をスタートし、春野総合運動公園をゴールとする42.195kmのフルマラソンとなっている。高知県の観光名所を回るコース設定、沿道からの途切れることのない声援やボランティアの方々のおもてなしは、ランナーからの高い評価を得ている。また、本大会の特徴としては、県外からの参加ランナーが半数を占めていることが挙げられる(図4-1)。

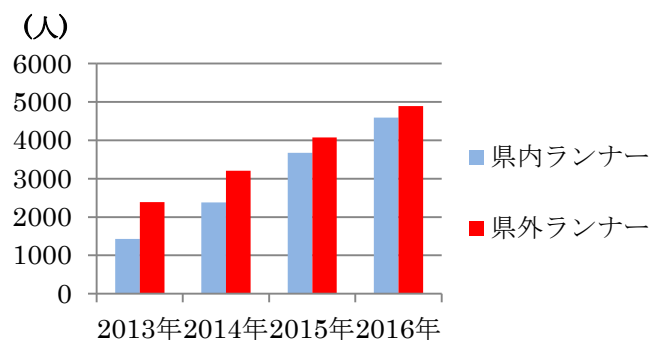


図4-1 県内・県外ランナーのエントリー数

2013年度から始まった高知龍馬マラソンは、定員3,500

名の抽選制で行われていたが、2015年度から定員 7,000 名の先着公募制に変わり、全国的にも大規模なマラソン大会と変化していった(図 4-2)。

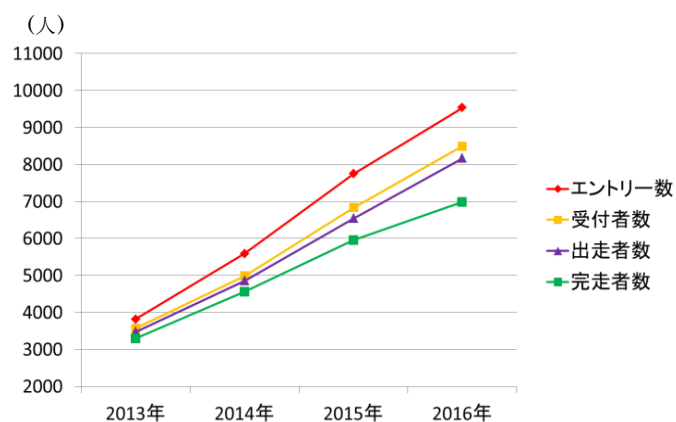


図 4-2 高知龍馬マラソン参加者の推移

補助金・参加料・協賛金が収入の大部分を占めている。また、今大会の全決算額の約 22%を高知県及び高知市が補助金という形で負担していることがわかる。支出の部では大部分を業務委託料が占めており、業務委託する企業は公募型プロポーザルで決められる。資格要件の中に「高知県内に本社(本店)または支店(営業所等を含む)」とあるが、高知県内に本大会規模のマラソンイベントを運営できる企業がないため、県外の企業に委託していることが実行委員会の方へのヒアリングでわかった。また、本大会では企業からの飲食品提供、多くのボランティア協力のため、本大会の規模の割には需用費が低くなっている。

5. 収支決算書分析

収支決算書の収支・支出を分析していく(表 5-1)。

高知龍馬マラソンの大会収入は 1 億 3541 万 8388 円で、

収入の部

表 5-1 平成 27 年実行委員会収支決算書

(単位：円)

科目	予算額 A	決算額 B	予算残額 C=B-A	説明
補助金	30,000,000	30,000,000	0	高知県:20,000,000 高知市:10,000,000
分担金	3,500,000	3,500,000	0	高知新聞社:1,750,000 RKC高知放送:1,750,000
参加料	80,000,000	73,984,000	△ 6,016,000	参加料@8,000×9,248
協賛金	25,000,000	27,319,000	2,319,000	協賛金 26,320,000 広告料 999,000
その他	170,452	285,840	115,388	申込手数料、セミナー参加料、再発行手数料 預金利子等
繰越金	329,548	329,548	0	前年度繰越金
合計	139,000,000	135,418,388	△ 3,581,612	

支出の部

(単位：円)

科目	予算額 A	決算額 B	予算額 C=B-A	説明
賃金	800,000	206,800	△ 593,200	封入作業賃金
報償金	4,590,000	2,758,401	△ 1,831,599	ゲストランナー・医師・看護師・理学療法士 ・出演団体等謝礼

旅費	750,000	802,359	52,359	県内外打合せ等
需用費	30,546,000	30,998,108	452,108	選手給水・給食物、スタッフ・ボランティア昼食、参加賞、印刷物、スタッフジャンパー等
役務費	3,024,000	3,126,230	102,230	通信運搬費、保険料、汲み取り等
委託料	97,080,000	93,261,903	△ 3,818,097	業務委託料(運営、警備、仮設トイレ、コーン、選手輸送バス等)
使用料及び賃料	1,610,000	1,529,658	△ 80,342	会場借上料、救護用品借上料等
公課費	600,000	483,300	△ 116,700	収入印紙、消費税
繰越金	0	2,251,629	2,251,629	次年度へ繰り越し
合計	139,000,000	135,418,388	△ 3,581,612	

出所)資料提供・高知龍馬マラソン実行委員会

6. 直接効果の算出

直接効果の算出に関しては、吉川(2012)、日本銀行宮崎事務所日本銀行鹿児島支店「マラソン大会の経済効果」2010を参考にし、以下の3つの項目を算出しこれらを合算したものを直接効果とする。

- (1) 高知龍馬マラソン大会開催費用
- (2) 高知県での宿泊費額
- (3) 高知県での消費額(飲食・土産・その他)

なお、交通費に関しては、参加者の多くが自家用車で参加することや、県外からの参加ランナーは交通費を高知県では精算しないものとするため、直接効果には含めないものとする。ここでの項目の設定や金額については仮定に基づいた値が多いため、想定外の経済効果が生まれる可能性にも留意する必要がある。以下でも同様のことが言える。

(1)高知龍馬マラソン大会開催費用

表 5-1 支出の部より、大会支出が高知県に帰着するものと、帰着するものに分類する。実行委員会関係者への

ヒアリングで、高知県に帰着しないものは、ゲストラナー費、業務委託(運営)費、公課費、繰越金とする。ゲストラナーの費用に関しては、詳細な金額が掲載されている資料を頂けなかったため、吉川(2012)にならって、500,000円と仮定する。委託業務(運営)に関しては、2017公募型プロポーザル募集要項より、58,380,000円と仮定する。公課費、繰越金については、収支決算書より483,000円及び2,251,629円とする。以上より、高知県に帰着しない金額の合計は、61,614,629円となる。

大会支出から高知県に帰着しない金額を差し引いた
 $135,418,388 \text{円} - 61,614,629 \text{円} = 73,803,759 \text{円}$
を大会支出による高知県に帰着する効果とする。

(2)高知県での宿泊費

高知県での宿泊費だが、高知県で開催される大会であるため宿泊するのは県外から参加するランナーと仮定する。また、1人当たりの宿泊費に関しては、H27年高知県県外観光入込・動態調査報告書に記載されている県内消費額(表 6-1)を参考に7,682円とする。県外から参加するランナーの宿泊日数については、H27年高知県県外観光入込・動態調査報告書に記載されている平均旅行日数

(図 6-1)を参考に、地域ごとに 2泊3日や1泊2日と仮定していく。その結果、2泊3日の地域が北海道、東北、関東、北陸・新潟、甲信・東海、近畿、九州・沖縄、海外となり、1泊2日の地域が中国となった。なお、四国県内からの参加ランナーは、実行委員会関係者へのヒアリングで、日帰りでの参加することが多数を占めることがわかったため、宿泊費算出の際、除外して考えることとする。宿泊者数は、実行委員会関係者から頂いた、高知龍馬マラソン「出走者数」集計資料より、北海道 36名、東北 16名、関東 729名、北陸・新潟 20名、甲信・東海 150名、近畿 916名、中国 451名、九州・沖縄 86名、海外 37名となり、1泊2日が 451名、2泊3日が 1,990名と算出する。以上より

2泊3日 1,990名×15,364円=30,574,360円

1泊2日 451名×7,682円=3,464,582円

上記の合計である 34,038,942円を宿泊費による効果とする。

(3)高知県での消費額(飲食費・土産・その他)

(2)と同様、高知県で開催される大会であるため、県外から参加するランナーのみを対象とし、消費額(飲食費・土産・その他)を算出する。また、高知県での1人当たりの消費額は、H27年高知県県外観光入込・動態調査報告書に記載されている県内平均消費額費目別内訳(表 6-1)を参考に飲食費を 5,827円、土産代を 5,171円、その他を 829円とする。県外から参加のランナーについては、(2)の高知龍馬マラソン「出走者数」集計資料より 4,048名とする。以上より

4,048名×11,827円=47,875,696円

を高知県での消費額(飲食費・土産・その他)による効果とする。

	宿泊費	飲食費	土産代	その他
H27年	7,682円	5,827円	5,171円	829円

表 6-1 H27年県内平均消費額費目別内訳

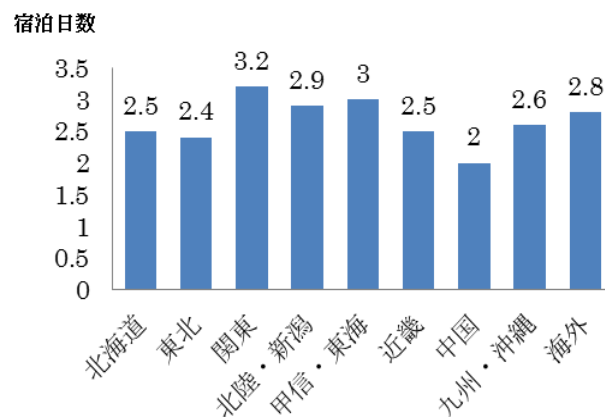


図 6-1 H27年発地ブロック別県内旅行日数

※表 6-1 図 6-1 は平成 27 高知県県外観光入込・動態調査報告書をもとに作成。

(1)(2)(3)より、高知龍馬マラソン大会開催費用 73,803,759円、高知県での宿泊費額 34,038,942円、高知県での消費額(飲食費・土産・その他)47,875,696円となり、合計すると 155,718,397円となる。この金額が高知龍馬マラソン 2016での直接効果となる。

7. 産業連関表を用いた間接効果の算出

6節で求めた直接効果を産業連関表に投入し間接効果を算出するためには、直接効果の金額を産業部類別に振り分ける必要がある。振り分ける項目を先行研究及び実行委員会関係者へのヒアリングを参考に、表 7-1とする。H23年高知県産業連関表(40部門)([3])に振り分けた直接効果の金額を投入し、高知龍馬マラソンの間接効果を算出した結果を表 7-2に示す。大会支出金額に関して、詳細な内訳が記された会計資料を頂けなかったため、先行研究(参考文献[1])や実行委員会関係者へのヒアリング、2017年公募制プロポーザル募集要項より仮説を立て、金額を投入していく。なお、宿泊費、消費額に関しては、県外ランナー個人が受けたサービスと考えるため、すべての金額を対個人サービスに投入する。

表 7-1 振り分ける項目

産業項目	対象	内容
耕種農業		
畜産・その他農業		
林業		
漁業		
鉱業		
飲食料品	○	大会支出
繊維製品	○	大会支出
製材・木製品・家具		
パルプ・紙・紙製品	○	大会支出
化学製品		
石油・石炭製品		
プラスチック・ゴム		
窯業・土石製品		
鉄鋼・非鉄金属		
金属製品		
はん用機械		
生産用機械		
業務用機械		
電子部品		
電気機械・情報・通信機器	○	大会支出
輸送機械	○	大会支出
その他製造工業製品		
建築		
土木		
電力・ガス・熱供給		
水道		
産業物処理	○	大会支出
商業		
金融・保険	○	大会支出
不動産		
運輸・郵便		
情報通信		
公務		
教育・研究		
医療・福祉	○	大会支出
その他の非営利団体サービス	○	大会支出
対事業所サービス	○	大会支出
対個人サービス	○	宿泊費・消費額
事務用品		
分類不明	○	大会支出

表 7-2 直接効果の投入

産業項目	直接効果	間接効果	合計
耕種農業			
畜産・その他農業			
林業			
漁業			
鉱業			
飲食料品	12,000	5,805	17,805
繊維製品	2,000	561	2,561
製材・木製品・家具			
パルプ・紙・紙製品	3,000	1,244	4,244
化学製品			
石油・石炭製品			
プラスチック・ゴム			
窯業・土石製品			
鉄鋼・非鉄金属			
金属製品			
はん用機械			
生産用機械			
業務用機械			
電子部品			
電気機械・情報・通信機器	1,091	292	1,383
輸送機械	6,800	1,431	8,231
その他製造工業製品			
建築			
土木			
電力・ガス・熱供給			
水道			
産業物処理	1,110	244	1,354
商業			
金融・保険	924	253	1,177
不動産			
運輸・郵便			
情報通信			
公務			
教育・研究			
医療・福祉	2,158	560	2,718
その他の非営利団体サービス	100	37	137
対事業所サービス	31,900	7,907	39,807
対個人サービス	81,911	27,826	109,737
事務用品			
分類不明	12,724	7,248	19,972
合計	155,718	53,408	209,126

8. 結果

図 7-2 より、間接効果は 53,408,000 円と算出され、直接効果の金額を合計すると、209,126,000 円となる。この合計の金額が、高知龍馬マラソン 2016 の経済効果と推定される。繰り返しになるが、この値はあくまでも推定の値であり、想定できない経済効果が生まれることで、経済効果の金額が変わる可能性があることを留意する必要がある。

また、高知県及び高知市からの助成金 3000 万円をもとに費用対効果をとると、約 6.9 倍となる。この金額を経済効果が算出されている近県のマラソン大会と比較すると、第 52 回愛媛マラソンでは県・市からの助成金 3000 万、経済効果 3 億 4 千 2 百万円、費用対効果約 11.4 倍。おokayamaマラソン 2015 では県・市からの助成金 1 億 5 千 6 百万、経済効果 14 億円、費用対効果 8.9 倍となる。これらの数字を見ると高知龍馬マラソンより大きい数値となっているが、本論文ではランニング用品、交通費を含んでいないことや、本大会は、開催されてからの年数が浅いこと及び 2017 年大会では大会が開催されて初めて参加ランナーが 1 万人を突破したため、今後の大会ではより高い経済効果が予想される。

参考文献・協力

- [1]吉川浩「マラソン・イベントの経済波及効果」(2012 小長谷一之、前川知史編 『経済効果入門地域活性化・企画立案・政策評価ツール』)日本評論社
- [2]高知龍馬マラソン実行委員会 資料提供
- [3]高知龍馬マラソン 2017 公式ホームページ
<http://rvoma-marathon.jp/> 2016 年 10 月
- [3]平成 23 年(2011 年)高知県産業連関表
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/111901/sanren23.html> 2016 年 12 月
- [4]平成 27 年高知県県外観光入込・動態調査報告書
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/020101/25doutaigaiyou.html> 2016 年 11 月

- [5]りゅうぎん総合研究所(2009)「第 25 回 N A H A マラソンの経済効果についてー経済効果は約 16 億 8,300 万円ー」
<http://www.ryugin-ri.co.jp/wp-content/uploads/485.pdf#search=%27%E3%83%9E%E3%83%A9%E3%82%BD%E3%83%B3%E7%B5%8C%E6%B8%88%E5%8A%B9%E6%9E%9C%27> 2016 年 11 月
- [6]日本銀行宮崎事務所 日本銀行鹿児島支店(2010)「マラソン大会の経済効果」
<http://www3.boj.or.jp/miyazaki/miyazakinote/data/note11.pdf#search=%27%E3%83%9E%E3%83%A9%E3%82%BD%E3%83%B3%E7%B5%8C%E6%B8%88%E5%8A%B9%E6%9E%9C%27> 2016 年 12 月

